

大麦特報 (第3号)

平成30年2月26日
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

本年の大麦は、ほ場や播種時期によって生育のバラつきが大きくなっています。今後の生育を確保するため、次の対策を実施しましょう。

- ◎ほ場をこまめに見回り、停滞水があれば速やかに排水しましょう。
- ◎分施肥栽培は消雪後に、遅れず追肥を行いましょ。

1 排水溝の点検・手直し

大麦は、ほ場内に水が停滞すると、湿害（根腐れ症状）を受け、生育量の不足や収量の減少につながります。

排水溝の手直しを行うとともに、深く掘り下げた排水口への連結を徹底しましょう。

溜まっている水を早く排水しよう！

湿害で根が弱り、肥料を吸えないよ～

水が多くて呼吸ができないよ～

排水溝の連結、排水口の掘り下げも忘れずに！

2 消雪後追肥の実施

◎分施肥体系のみ

この時期の追肥は、大麦の生育を回復させ、適正な茎数・穂数を確保するために重要な作業です。

時期 3月上旬を目安に

※目安：平均気温4～5℃となる頃

施用量 硫安 20kg/10a

※茎数が多い場合(土が見えないくらい繁茂しているようなほ場)は、施肥量を減らしましょう。

※肥効調節型肥料(LP大麦48号)を施用した場合は、原則追肥は不要です。

ただし、極端に葉色が薄い場合はJAや農林振興センターにご相談ください。